

## 小白川の積石塚と大ケヤキ

小白川口留番所から道路を挟んで反対側、庄川の西岸の森の中に、独特の形をした非常に大きな岩がある。巨石の上にはケヤキの大木があり、岩の周りや上には石が積まれている。これは墓石である：古代から 1970 年代初頭まで、この場所は小白川集落の共同墓地として機能していた。多くの墓は無名だが、一番上のものは、江戸時代（1603～1867 年）に小白川の番所を担当していた役人のものであることがわかっている。

白川では、日本の他の地域とは異なり、大きな墓石を持つ墓は伝統的に珍しかった。白川の埋葬習慣は、古代の自然崇拜と初期の浄土真宗の影響を受けており、祖先崇拜は不要とされ、極楽（浄土）に導く阿弥陀仏への信仰による救済が重視されていた。小白川の地が墓地として選ばれたのは、神霊が宿ると信じられていたケヤキの大木があったからだと考えられる。この木は昔から火葬が行われていた川岸に影を落としている。